



苫前町・小平町・留萌市
増毛町をご紹介します

管内直売所情報

作物の生育状況により、開催期間が前後する場合があります。

苫前町【鮮魚など】 北るもい漁協 苫前冷蔵庫直売所

■直売場所: 苫前郡苫前町字苫前85番地
 ■開催期間: 6月1日～8月12日の毎日
 ■営業時間: 9:00～15:00
 ■電話番号: 0164-64-2446



苫前漁港の白い建物が目印



道の駅「風Wとままえ」の案内板

苫前町【野菜など】 ふわっと朝市

■直売場所: 道の駅「風Wとままえ」前
 (苫前郡苫前町字苫前119)
 ■開催期間: 7月中旬～8月末の土・日
 ■営業時間: 8:00～10:00
 ■電話番号: 0164-64-2810

小平町【鮮魚など】 臼谷漁港漁師直売所

■直売場所: 臼谷漁港内
 (留萌郡小平町臼谷)
 ■開催期間: 年中
 臼谷漁港では19軒の漁師直売店があり、
 鮮魚・タコなどを販売している。



「臼谷一区」の交差点を曲がる



ゆったりかんの看板が目印

小平町【野菜など】 たかさごや

■直売場所: 「ゆったりかん」前
 (留萌郡小平町字小平)
 ■開催期間: 7月中旬～8月中旬の日曜日
 ■営業時間: 10:00～売り切れまで
 ■電話番号: 0164-56-2961

留萌市【野菜など】 藤の里

■直売場所: 風土工房「こさえる」前
 (留萌市藤山町)
 ■開催期間: 7月18日～10月上旬の水・日
 ■営業時間: 8:00～売り切れまで
 (初回のみ9:30オープン)
 ■電話番号: 0164-43-4556



国道233号こさえるの看板が目印



かもめ幼稚園のなまめ向かい

留萌市【野菜など】 VEGITABLE STATION

■直売場所: さしかわ(株)となり
 (留萌市開運町3丁目)
 ■開催期間: 7月中旬～9月中旬の水・土
 ■営業時間: 14:00～売り切れまで(水)
 12:30～売り切れまで(土)
 ■電話番号: 0164-56-2152

留萌市【鮮魚など】 うまいよ！るもい市

■直売場所: 留萌市地方卸売市場
 (留萌市明元町6丁目)
 ■開催期間: 7月25日・8月8日
 9月12日・12月5日
 ■営業時間: 10:00～14:00
 ■電話番号: 0164-43-6817



開催時に誘導案内板あり



留萌警察署となり

留萌市【野菜など】 留々菜(るるな)

■直売場所: Aコープ「ルビナス」内
 (留萌市高砂町3丁目4-1)
 ■開催期間: 年中(7月2日オープン)
 ■営業時間: 10:00～20:00
 ■電話番号: 0164-42-2104

留萌市【鮮魚など】 礼受漁港直売所

■直売場所: 礼受漁港内
 (留萌市礼受町)
 ■開催期間: 年中
 礼受漁港では3軒の漁師直売店があり、
 鮮魚・ホタテなどを販売している。



魚直売の看板を曲がる



国道231号沿いリンゴの看板が目印

増毛町【果物など】 果樹園直売所

■直売場所: 増毛郡増毛町暑寒沢 他
 ■開催期間: 年中
 増毛町では暑寒沢地区を中心に果樹園が
 広がっている。国道沿いのリンゴの看板
 には付近の果樹園地図が載っている。

苺の季節



イチゴのタルト

イベント 情報 6月20日 ～7月末

天塩町

「第29回鏡沼しじみまつり」
 ■日時: 7月10日(土)・11日(日)
 ■場所: 鏡沼海浜公園

初山別村

「しょさんべつ星まつり」
 ■日時: 7月3日(土)
 ■場所: しょさんべつ天文台

羽幌町

「サンセット王国花火大会」
 ■日時: 7月18日(日)
 ■場所: 羽幌港

留萌市

「うまいよ！るもい市」
 ■日時: 7月25日(日)
 ■場所: 留萌市地方卸売市場

遠別町

「みなくるび〜ちオープン協賛
 ビーチバレーボール大会」
 ■日時: 7月18日(日)
 ■場所: みなくるび〜ち

羽幌町

「焼尻めん羊まつり」
 ■日時: 7月3日(土)・4日(日)
 ■場所: 焼尻フェリーターミナル周辺

苫前町

「北海道風車まつり」
 ■日時: 7月25日(日)
 ■場所: とままえ未来港公園

お問い合わせは
 地域情報発信システム
 実行委員会までどうぞ

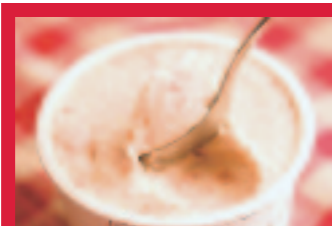


編集後記

子供の頃に抱いていた夢の一つに「イチゴ狩り」があった。テレビでイチゴ狩りのニュースを見るたびに、うらやましいと思っていた。実は2年前、初めてイチゴ狩りに行った。イチゴ狩りで味わうイチゴは、普段食べているイチゴと一味も二味も違う味だった。今年は春先の天候不順でイチゴや野菜などの生育状況が遅れている。そんな逆境をはねのけ、美味しい作物ができあがることを願っている。(高橋 信夫)



【旬の人】… P 2



古村農園 … P 2



季節の食材 … P 3



るもいフードマガジン … P 3

留萌地域情報サイト るもいfan

あなたの人・食・地域の情報おまちしております！
 発行・編集 / 地域情報発信システム実行委員会

北海道留萌市船場町
 2丁目 JR留萌駅2階
 TEL: 0164-42-3871
 FAX: 0164-42-2200

FM もえる 76.9MHz
 「わがマチ元気発信」
 平日 8:25/12:25/18:25~

http://rumoifan.net
 毎日情報更新中!

ポッドキャスト配信中
 るもいfan.net トップページ
 「食の交流放送」からアクセス

木谷 辰雄さん

KIYA TATSUO

米・果樹・山林
三本柱で生きる

留萌管内増毛町は果樹栽培に適した土地だ。温暖な気候が育む果実は春のイチゴ、初夏のサクランボ、夏のプラムやモモ、秋はブドウ、ナシ、リンゴが実る。豊かな実りを支えるのは、人の想い。

多角的に生きる

木谷家は石川県から増毛町へ入植し農業を生活の糧としてきた。辰雄さんは三代目として、祖父・父の代が拓いた農地を守りつつ、果樹栽培と山林経営を取り入れてきた。木谷さんが暮らす増毛町湯の沢地区は、その地名が示すように、かつては温泉が湧き、温泉宿



木谷 辰雄さん
昭和3年生まれ 増毛町在住
木谷果樹園
北海道指導林家
留萌地区指導林家連絡協議会会長
プロフィール

もあつたほどの温暖な地。さらに、地中には石が多く、水はけが良いため、果樹栽培に適した土地柄であった。木谷さんは、この土地の個性を活かしてきた人だ。昭和20年代から10年ほどは食糧難の時代が続き、加えて幾度かの冷害にも見舞われた。木谷さんは一粒でも多くの米を収穫しようと必死に働いた。その体験を

木の気持ち

小さな苗木から半世紀をかけて大きく育てる樹木は、木谷さんにとってかけがえない宝物だ。「木は何も言わないから、こつちが察してやるのが大切。木の一本一本に個性がある」と語る。

踏まえ、木谷さんの60年以上に及ぶ農業経営の柱としたのが、米、果樹、山林の三本柱だ。現在、果樹はサクランボ、ナシ、リンゴ合わせて千本以上を育てるまでになった。

「安定的に収益をあげ、家族を養っていくには、どれかひとつだけではなく、複合的に経営することが大切だと、若い頃から信じてやってきただけだ」と日に焼けた顔が優しく微笑む。現在は四代目である息子の辰彦さんに経営を任せているが、80歳を超えてなお、現役として、果樹栽培と山林の手入れのため、日々の作業を欠かさない。



色づく前のサクランボの実

「動画館るもい座」で木谷さんをご紹介します。
http://rumoi-sasurai.lolipop.jp/wordpress/



家族や仲間と楽しいひとときを

木谷果樹園
〒077-0207
北海道増毛郡増毛町湯別湯の沢
TEL: 0164-53-1962

(有)無限樹

農業の企業化

苫前町古丹別から約12km南の三溪地区。ここに農業生産法人(有)無限樹がある。経営面積は約200ha、社員は総勢30名。社長の大川博文氏は3K(きつい、汚い、金欠)と言われ続けた農業を、今後は企業として営農すべきと考え

その牽引的役割を担うべく、平成8年に農業生産法人を設立した。

経営テーマは3Y(夢・余裕・安らぎ)、3A(安価・安全・安定)、3J(自主・自立・自由)とし、無限に伸びゆく樹の可能性を実現しようと(有)無限樹と名付けた。

最北のイチゴ園

無限樹は日本最北のイチゴ園でもある。イチゴ栽培のきっかけは大川社長自身が納得できる甘さと言さ

兼ね備えたイチゴを食べたいと思ったのが始まりだ。数年間の試行錯誤を経て満足できるものを収穫できるようになった。イチゴ園の評判は序々に広がり、今ではリピーターも多く、稚内方面からも人々が訪れる。年中行事として地元の幼稚園や小学校の子供達が訪れる。「経営的にはきついがお客さんが喜び姿を見ると、たとえ赤字になっても辞められない」と大川社長は語る。最北のイチゴ園は、今年も開園の季節を迎える。



ハウス内で成長するイチゴ



イチゴの花は白く可憐だ

(有)無限樹
〒078-3638
北海道苫前郡苫前町字三溪87番地
TEL: 0164-65-3783

営業時間	8:00~17:00頃
入園料金	小学生以上 900円
(概ね1時間)	小学生未満 400円
	3歳以下 無料

私にとって初夏はイチゴの美味しさではじまります。

食の安全や、輸送による二酸化炭素の排出を気にかけるようになってからは、地元のもの食べ物を以外を子供らに食べさせることが、ずっと少なくなりました。

だから、留萌管内の果樹園にイチゴ狩りに行くのは、大好きなものを新鮮に、安心してお腹いっぱい食べられる、毎年我が家の「特別な日」になっています。

特別な日



去年のことで、園内を走り回りイチゴを頼張る我が子らは、園の子供たちがイチゴに興味なさそうに遊んでいる姿を見てびっくりしていました。その子たちはイチゴに囲まれる環境の中で生活しているのです。イチゴは我が家ではないのです。

私たちの親が子供の頃は、アメリカでも日本でも季節外れの食べ物や、輸入品を買うことは経済的に難しかったので、好むと好まざるに拘わらず、旬の地元のもの食べていました。でも季節に合わせた食べ方が美味しかったし、やはり特別な日の思い出になると聞きます。

「るもいフードマガジン」は留萌管内の産地消費・食についての情報交換の場です。どなたでもご参加できます。



主宰 佐藤アレーナさん

るもいフードマガジン
〒077-0046
北海道留萌市港町3丁目13番地
TEL/FAX: 0164-42-9757
E-mail: alainasato@hotmail.com

HP <http://www.rumoi-fan.net/RFM/>

古村農園

増毛町著別にある「古村農園」は、国道231号線沿いの小高い丘の上にあり、日本海の素晴らしい景色を見下ろしながら、6月はイチゴ狩り、7月はサクランボ狩りを楽しめる。直売所では果物のほかに、春は野菜の苗、初夏からは低農薬で栽培された新鮮な野菜を販売している。農園の営業は6月から9月まで。

自慢はイチゴアイス。種類はアイス・シャーベット・ゴールドの3種類。原料のイチゴは100%古村農園で穫れたものだ。無香料・無着色で口当たりよく、程良い甘さが特徴だ。

中でもゴールドアイスはイチゴアイスの3倍量のイチゴを使い、濃厚で贅沢な味わいだ。農園のほか増毛町内のオーベルジュまじけ、留萌市内のAコープルピナスで販売している。



イチゴアイス・シャーベット各250円
ゴールドアイス 400円

古村農園
〒077-0207
増毛町著別(国道231号線沿い)
TEL: 0164-53-2439
入園料: 中学生以上800円
小学生600円・幼児300円
(概ね30分程度)

季節の食材

イチゴ

NO.27



北海道の運動会シーズンは6月。この時期、店頭には地物のイチゴが並び始める。また、留萌管内の増毛町や小平町、苫前町ではイチゴ狩りを楽しめる果樹園もあり、たわわに実った真っ赤な実を、自分の手で摘み、ほおばると甘酸っぱさが口の中に広がり、いっそう美味しく感じるだろう。

北海道で生まれたイチゴ「けんたろう」は作付が増え、留萌管内でも栽培されている。そのまま食べるのが一番だが、小さな粒はジャムやソースにすると赤い色がきれいで。

イチゴはビタミンC、葉酸、食物繊維が豊富で一日に数粒食べるだけで、風邪予防に効果があるとされている。

子どもから大人まで好まれる果物をぜひ食卓に。



イチゴプリン
レシピはWEBで検索
「るもい食PEDIA」